平成２４年度　江戸川区教育課題実践推進校
研究課題「道徳教育の推進」

研究主題

豊かな心を育む道徳の時間の充実

平成２５年２月４日

江戸川区立瑞江中学校

目　　次

は　じ　め　に..... 2

Ⅰ　研究主題設定の理由..... 3

Ⅱ　研究の視点..... 4

　１　豊かな心..... 4

　２　語り合い..... 4

Ⅲ　研究仮説..... 4

　研究構想図 5

Ⅳ　研究の方法..... 6

　１　指導方法の工夫..... 6

　２　指導案検討..... 8

　３　道徳研修会..... 8

　４　学期末アンケートと道徳アンケート..... 8

Ⅴ　研究の内容..... 9

　１　授業研究・授業実践報告..... 9

　２　調査研究..... 14

Ⅵ　研究の成果..... 28

Ⅶ　今後の課題..... 30

あとがき 31

は　じ　め　に

江戸川区立瑞江中学校長　　佐々木　弘　叔

国際化・情報化が進み、グローバル化、IT 化、少子高齢化、価値観の多様化など、社会の変化は急速に進んでいます。また、いじめ、不登校など、子どもの心の問題、規範意識の低下やコミュニケーション力不足などによる課題も多くあります。このため学校教育においては、これからの社会の担い手となる子どもたちが、「生きる力」と「豊かな心」を身につけ、「地域や社会に貢献する」人材と成長するような教育活動の推進が求められています。このためには、教育活動を推進する教師一人一人の意識改革と意欲的な授業改善への取り組みが必要であり、校内研修を充実させ全教職員の共通の研究実践を通して「授業力向上」を目指していかなければなりません。

本校では、教育目標「自ら育つ」のもと、子どもの「豊かな心」と「主体的に生きる力」の育成に取り組んできております。多くの学校と同様に、本校も若手教員が増え、ますます教師の授業力向上が大きな課題となっております。そこで、教師の資質向上と生徒の心の育成を推進するために、従来どおり全教育活動において道徳教育を行いつつ、特に、全教員で道徳教育の要となる「道徳の時間」の充実に取り組もうと考えました。幸いこの度、江戸川区教育課題実践推進校（道徳）として１年間ではありますが、貴重な機会をいただき、研究主題を「豊かな心を育む道徳の時間の充実」として、全教師により取り組むことといたしました。

まず、教師が「道徳の時間」の進め方を改めて学ぶ。次に、学年ごとに資料を選定し、相談しながら指導案を作成する。そして、指導案に基づき研究授業・協議をとおして改善・工夫をする。また、授業の中では、子どもの考えを相互に聞き,受け止める場面をつくり、子どもの考えを深めようとする。このような授業実践を繰り返すことによりねらいを達成しようと研究を進めてまいりました。この授業実践を進める中で、子ども相互の新たな発見や教師自身が授業力の課題に気付くなど、教師の問題意識の高まりを実感しております。本研究を機会に、今後も教師の資質・能力の向上と教育活動の充実・発展に向けて一層の努力をしてまいります。

終わりに、本研究を進めるにあたり丁寧で温かいご指導をくださいました元帝京大学教授の牧野禎夫先生、様々な指導助言をくださいました江戸川区教育委員会の諸先生方に、心より感謝申し上げます。また、日頃より本校教育に多大なるご理解・ご支援くださいました地域・保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。

研究主題

豊かな心を育む道徳の時間の充実

Ⅰ　研究主題設定の理由

新しい学習指導要領は、「生きる力」の理念を継承しつつ、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学習意欲の向上や学習習慣の確立、豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実などを基本的な考え方としている。ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）のＰＩＳＡ調査など各種の調査から、我が国の生徒について次のような課題が見られた。①思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題の課題、②学習意欲、学習習慣・生活習慣の課題、③自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題である。

本校の生徒の実態として、文部科学省の「全国学力・学習状況調査」（平成 24 年４月、第３学年対象）の意識調査から、次のような肯定的回答を得た。「自分には、よいところがあると思いますか。」に対して 66.9%、「将来の夢や目標をもっていますか。」に対して 76.8%。また、東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（平成 24 年７月、第２学年対象）の意識調査から、次のような肯定的回答を得た。「自分は、最後までやりぬくなど、根気強い方だと思いますか。」に対して 48.5%、「自分のことを大切な存在だと感じていますか。」という問いに対して 49.1%。本校の生徒は素直で明るく、日々の学校生活を楽しんでいる。一方で、自己肯定感の低下が見られる。また、学級の中で友人関係を気にするあまり自己を表現することを躊躇する生徒や相手や周囲のことを考えられずに自己を主張しすぎる生徒もおり、他者との関わり方に課題を抱える生徒が見られる。

また、道徳授業の実践上の課題として、生徒が自己の考えを発言することに抵抗感があり、他者の考えと比較し、価値を深めることが苦手であることが挙げられる。

子供たちが、他者、社会、自然・環境との豊かなかかわりの中で生きるという実感や達成感を深めてこそ、健全な自信が育まれる。そのためにも、学校の集団生活の場としての機能を十分に生かし、道徳教育の一層の充実を図らなければならない。

今回の学習指導要領には、「道徳教育の要としての道徳の時間」と明記されている通り、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を補充、深化、統合することが求められている。そして、生徒がもつ課題を克服する第一歩として、道徳の時間の指導を充実させることが重要であると考えた。それには、教師自身が道徳教育について深く理解するとともに、道徳の時間における指導力向上を図るよう努める必要がある。

道徳の時間の指導にあたっては単に道徳的価値の押し付けにならないようにする必要がある。そのために、道徳の時間に用いる資料の精選と発問の工夫は極めて重要な要素となる。そして、生徒と教師、生徒相互が本音で語り合うことで考えが深まっていくものと考えられる。

そこで、本研究の主題を「豊かな心を育む道徳の時間の充実」とし、語り合い活動を重視した道徳の時間の指導を行うことで生徒に豊かな心を育てたい。教職員全員で要となる道徳の授業に取り組み、年間を通して授業研究を行い、道徳の時間の指導力向上を図ることにした。

Ⅱ　研究の視点

1　豊かな心

本校の教育目標は「自ら育つ」である。今年度の重点目標は「『豊かな心』と『主体的に生きる力』をもつ生徒の育成」である。本校が育成したいと考えている生徒像に照らし合わせて、豊かな心を次のように定義した。

(1)　心身ともに健全であろうとする心
(2)　我が国と郷土「えどがわ」の伝統と文化を尊重し、愛する心
(3)　互いの人権を認め合う心
(4)　社会の変化に主体的に対応し、将来の夢をもち、生涯を通して学び続けようとする心

2　語り合い

本校では「話合い」と「語り合い」を次のように区別し、道徳の時間には「語り合い」がふさわしいであろうと考えた。

(1)　話合い
学級活動や班活動で何か決め事をするための手段。個々がもつ意見を一つにまとめていくこと。
(2)　語り合い
集団の中で、互いに自分の考えや思いを他者に伝え、認め合いながら自己の内面を見つめ価値観を深めたり広げたりしていくこと。

道徳の時間の指導過程の中で、教師が発問を行い、生徒が回答をワークシートに書くといったことを繰り返すだけでは、自己内省は起こるが、多様な考えに触れ、道徳的価値を深めていくことはできない。そこで、道徳の時間を価値あるものとするために「語り合い」を重点項目の一つとして指導者が意識する必要がある。

Ⅲ　研究仮説

道徳の時間の中で、「資料選択」、「発問構成」、「語り合い」の三つの事項を工夫することにより、生徒が他者とかかわりながら、自己を見つめ、豊かな心が育まれるであろう。

道徳の時間の中で、「資料選択」、「発問構成」、「語り合い」の三つの事項は授業の中で道徳的価値を自覚させ、よりよく生きようとする実践意欲や態度を育むために欠かせないものである。授業研究を通して、これらの事項を工夫するように教師の指導力を向上させ、生徒に豊かな心を育むよう研究を行った。併せて、ティームティーチングを行うなど指導方法を工夫し、指導案検討と授業実践を積み重ねることによって、生徒に豊かな心が育まれるだろうと考えた。

研究構想図

研究主題「豊かな心を育む道徳の時間の充実」

道徳教育の目標「道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。」

道徳の時間の目標
「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、
道徳的実践力を育成する。」

本校の教育目標「自ら育つ」

重点目標「豊かな心」と「主体的に生きる力」をもつ生徒の育成

豊かな心
- 心身ともに健全であろうとする心
- 我が国と郷土「えどがわ」の伝統と文化を尊重し、愛する心
- 互いの人権を認め合う心
- 社会の変化に主体的に対応し、将来の夢をもち、生涯を通して学び続けようとする心

生徒の実態
- 行事への積極的参加
- 自己肯定感の低下
- コミュニケーション不足による人間関係トラブルの増加

道徳授業実践上の課題
- 生徒が自己の考えを発言することに抵抗感がある。
- 生徒が自分の考えと他者の考えを比較し、価値を深めることが苦手である。

研究仮説

道徳の時間の中で、次の三つの事項を工夫することにより、生徒が他者とかかわりながら、自己を見つめ、豊かな心が育まれると考えた。

１　資料選択
生徒が登場人物に共感できる資料や読んで感動する資料など、自己を見つめられる資料を選択する。

２　発問構成
主に中心発問では、生徒の多様な考えが引き出せ、道徳的価値を深めることができる発問を吟味する。

３　語り合い
教師と生徒だけでなく、生徒相互の語り合い活動を指導過程に位置付け、自己の考えと他者の考えを比較し、自己の考えを深めたり、広げたりする。

指導方法の研究
- ティームティーチングを導入し、Ｔ１と生徒との語り合いの時間を十分に確保する。
- ローテーション授業により、生徒に多様な価値観を身に付けさせるとともに、教師の道徳の時間の授業力の向上を図る。

指導案検討と授業実践
- 年６回（各学年２回）の道徳研修会により、講師の先生の指導の下、指導案検討を十分に行う。
- 指導案検討を行い、ねらいとする道徳的価値に迫る授業実践を積み重ねる。

豊かな心の育成

Ⅳ　研究の方法

1　指導方法の工夫

以下の項目に留意し、授業改善を行った。

(1)　資料選択

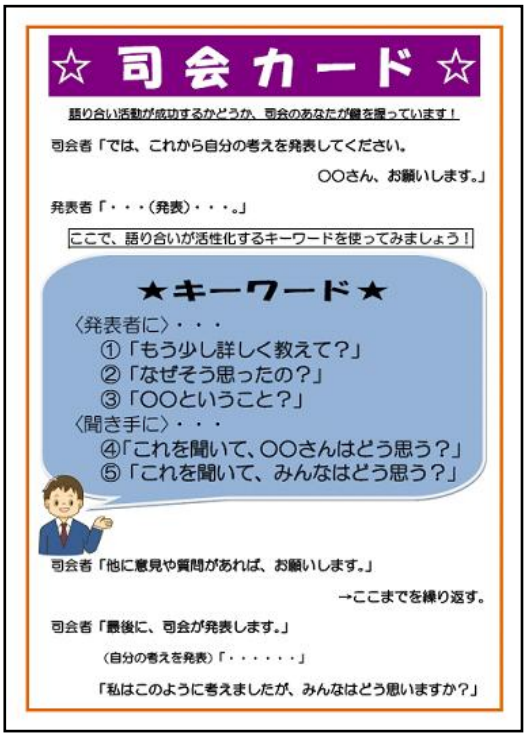
生徒の心に届き、ねらいを達成しうる適切な資料を選択するよう心掛けた。例えば、主人公が葛藤する資料、感動的な資料、身近な問題や社会問題を取り扱った資料、先人の生き方から学ぶ資料など副読本を中心に「心みつめて（東京都教育委員会）」、「東京都郷土資料集（東京都教育委員会）」「中学校道徳読み物資料集（文部科学省）」や一般書籍などから選択した。

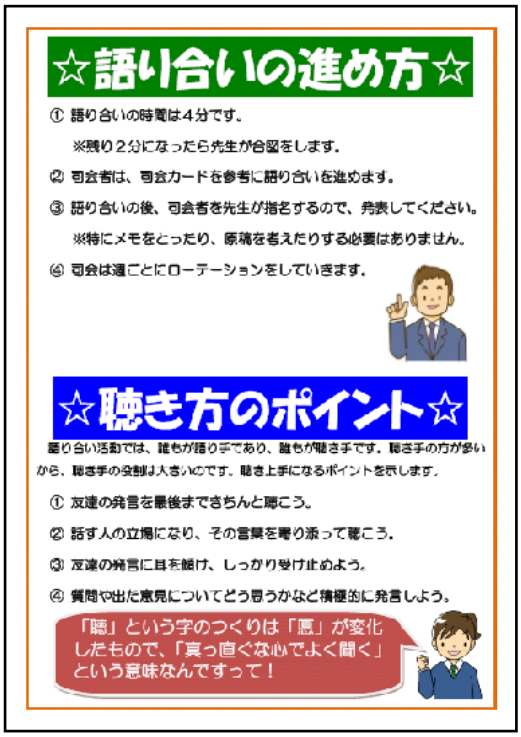
(2)　発問について

教師は生徒が深く考えられるように、主人公の気持ちを追うだけでなく、「主人公の行動や態度についてどう思うか。またそれはなぜか。」や「主人公はなぜそのような行動や態度をとったのだろうか。」といった発問を用意した。生徒の反応に対して切り返し発問を行ったり、思考を深めるための補助発問を行ったりしながら、教師が生徒とともに人間としての生き方を考えていく姿勢を大切にする発問を考えた。また、発問数を二つないし三つに絞ることで語り合いの時間を十分に確保した。

(3)　小集団での語り合い活動

授業の中に、２人組や４人組等、小集団による語り合い活動を取り入れた。自分の考えを他者に伝え、他者の考えを聞きながら自己内省を促した。授業の構成は、生徒同士、生徒と教師の語り合いを中心におき、発問も語り合いが行いやすいように工夫した。ワークシートは、重要な設問について書かせるだけにして、授業の中では語り合うことを重視した。語り合いに慣れるまで、小集団ごとに司会をたて、語り合いの進め方や、切り返しの仕方を記した司会カードを補助的に使用した。





司会カード

(4)　ティームティーチング（ＴＴ）による指導

各クラスの担任と副担任でペアを組み、ＴＴで授業を行い、授業の効率化を図った。基本的には担任がＴ１、副担任がＴ２とするが、副担任がＴ１として授業を行ったり、授業ごとにペアを変えたりする等、教員全員で授業を実施できるよう工夫した。Ｔ１とＴ２は、資料の朗読、板書、生徒との語り合い等、事前に役割分担をきちんと決めた上で、臨機応変に授業を行った。また、教具が多い授業の場合は、連携をとるために事前に黒板を使って練習を行った。

(5)　クロス授業・ローテーション授業

２クラスの授業者が週ごとに互いに入れ替わり、同じ指導案で授業を行うクロス授業や、学年の授業者がクラス数分、同じ指導案で授業を行うローテーション授業を行うことによって、教師一人一人の道徳の授業力を高め、授業の質の向上を目指した。

(6)　板書計画の工夫

写真・絵・文字カードといった視覚教材を取り入れ、生徒の資料に対するイメージを喚起した。また、板書はその１時間の授業の流れが分かるように計画を立てた。発問については、指導案の文言をそのまま書くのではなく、キーワードを貼るようにした。

板書例①

板書例②

２　指導案検討

授業前には指導案検討を十分に行い、教員相互で確認し、生徒にとってねらいとする道徳的価値に迫れる発問を工夫した。Ｔ１とＴ２が、授業の展開の方法について検討し、さらに学年教員の中で発問が適切であるかを、授業の前に話し合う。また、授業後にも、それぞれのクラスにおける生徒の反応や、授業後の感想をもとに、授業や発問について見直しを行った。

３　道徳研修会

１学期、２学期に各学年１回ずつ道徳の授業実践を通した、道徳研修会を行い、授業力の向上に努めた。それぞれの研修会においては、４クラス中２クラスが研究授業を行い、授業者以外の学年教員は授業を参観した。授業後、指導案や授業について、講師の牧野禎夫先生のご指導のもと、学年教員で協議を行った。学年ごとに、協議会で話し合われた内容をまとめ、学校ＬＡＮ上に掲載し、学校全体で研修会の情報を共有した。

平成２４年度　道徳研修会

＜１学期＞

４月２６日(木)　３ＡＢ　「独りを慎む」　自制する心　１－(１)

５月２９日(火)　２ＡＣ　「『自分』ってなんだろう」　自己を見つめる　１－(５)

５月３０日(水)　１ＡＢ　「目指せ傘盗難ゼロ！越路中の挑戦」

よりよい社会の実現　４－(２)

(第５５回“社会を明るくする運動”作文コンテスト法務大臣賞(最優秀賞)中学生の部)

＜２学期＞

９月　７日(金)　１ＣＤ　「ゴミくず」　いじめについて考えよう　４－(３)

(「だからあなたも生きぬいて」大平光代著　講談社刊より)

９月１２日(水)　３ＣＤ　「天職って、なんだろう」　働く尊さ　４－(５)

１１月　７日(水)　２ＢＤ　「悲願のりんご」　生きがいを求めて　１－(４)

４　学期末アンケートと道徳アンケート

本校が毎学期末に行っている学校生活に関する学期末アンケートと４月から１１月までの道徳の授業に関する道徳アンケートを行い、生徒に今年度の活動を振り返るきっかけを与えたとともに、教師が生徒の実態を把握した。

Ⅴ　研究の内容

１　授業研究・授業実践報告

⑴　第３学年研修会報告

授業日時	平成２４年４月２６日
対象	３年Ａ組・Ｂ組
主題名	自制する心　１－（１）
資料名	「独りを慎む」向田邦子（「明日を生きる３」日本文教出版）

ア　資料について

・向田邦子の文は大人が読んでも感心するが、生徒にはそれがわかるだろうか。しかし、別の世界を見せるという意味では良い資料だろう。

・本文は難しい資料である。内容項目１－（１）の生活習慣として取り上げるなら､善し悪しではなく、「どうすれば改善できるか」である。

・この資料は３－（３）「弱さの克服」にあてはまるのでは。どのようにして自分の心の弱さを乗り越えるのか､努力をしているのかと流れていく資料なので、そのように考えた方がよい。

イ　発問について

・いろいろな意見が出る内容ではない。同じような意見が多く、模範的な解答が多くなる。

・「一人暮らしをしてみたいか」の発問は素直な意見が出て良かった。

・語り合いにもって行くに当たり、たくさん語らせたい思いと、意見が似てきてしまうような場合があり、発問の難しさを感じた。

ウ　語り合いについて

・６人組の班でやらせると人数は多くなり、学活になってしまう。３、４人組くらいだと近くの班の話し合いが気になってしまうことがある。メンバーによっては黙ってしまう場合もある。

・司会を一人たて、語り合いを進行できるようになる班が望ましい。

・生徒も語り合いと話し合いの違いがまだわかっていない。

・生徒の発言がとても素直である。格好いいことを言おうとせず「答えたい」と思える環境にあると感じた。

・生徒にたくさん語り合わせてほしい。

・生徒同士の語り合いからクラス全体への発展へとつながるとよい。

エ　指導過程

㈠　導入

・短く５分以内で終わらせたい。

・「一人暮らしをしてみたいか」発言はよく出た。

(ｲ)　展開

・資料を読むのはＴ２でもよい。またBGMをかけるなどの工夫があってもよい。

・時間を考えると発問の一つ一つをワークシートに書くことはない。

・グループだけで中心発問を語り合うのは少し物足りない。学級全体へつなげたい。代表者に全て発言をさせたり、紙に書いて黒板に貼らせたりするのも良い。

・大切な部分は残し、カットすべきところはカットする。

・生徒の発言が小さいとき、繰り返して言うようにしていた。

・指導案の中の、「予想される生徒の反応」は「ほしい反応」を書いておくとよい。

(ｳ)　終末

・Ｔ１,Ｔ２が自分の体験談を話すのは非常によい。

・他の人の意見を聞いた感想はワークシートに書かせず､まとめで総括的に書かせる。

・感想ではなく、感じたこと､考えたことを最後に書かせる。

・感想は書いて終わりにせず、２，３人分を読み上げてやると良い。友人がどのように考えているのか、授業を通してどう思ったかが聞きたい。

オ　板書について

・資料名やキーワード、発問の一部など文字カードを作って貼るとよい。

・１時間に１枚の板書に収まるようにするのが原則だが、必要に応じて消し書きする。

・タイトル名を貼るのは、導入が終わり資料に入るときでもよい。

・写真や絵が貼られるとなお良い。

(2)　第１学年研修会報告

授業日時	平成２４年５月３０日
対　象	１年Ａ組・Ｂ組
主題名	よりよい社会の実現　４－（２）
資料名	目指せ傘盗難ゼロ！越路中の挑戦 第 55 回“社会を明るくする運動”作文コンテスト法務大臣賞（最優秀賞）中学生の部

ア　資料について

・実在の中学校で、頻発する傘の盗難を激変させた報告である。身近な事柄なので、あえて作文をそのまま資料として使用した。

イ　発問について

・道徳の発問は「なぜ？」が重要。「こんな時、あなたはどうするか」という発問は、学活のカテゴリーに入る。

・当初の指導案より改善されて道徳としてはよい発問になっていた。

ウ　語り合いについて

・語り合いの際の、教師のサポート（声かけ）は、生徒からの質問に答えられるように、教師２人で机間指導をする。その際、どのような語り合いをしているか、よく聞き止める。一人一人が発言できているか、人の話を聞けているかを確認する。

エ　指導過程

(ｱ)　導入

研究授業のときは時間がオーバーしがちである。導入は５分程度にするとよい。

(ｲ)　展開

①　資料の朗読

・基本的に読み物資料は切らずに読む。

・事前に資料をよく読み込んで感情を表現する朗読が望ましい。

②　資料の内容理解から発問へのスムーズな移行

・主語を作者・主人公など、一人の中心人物の考えを追っていくのが鉄則である。

・「なぜ」と発問して、行動の背景にあるものにも焦点を当てる。

(ｳ)　終末

・最後に書かせるのは感想ではいけない。授業を通してどういうことを考えたかを問いたい。

・毎回の授業は発表会のつもりで、何人かの生徒に発表させるとよい。

オ　板書について

・掲示の発問、字が小さかった。全文でなく、キーワードでよいので字を大きくするとよい。

・生徒や班の意見を全て掲示や板書をしなくてもよい。

(3)　第２学年研修会報告

授業日時	平成２４年１１月７日
対　象	２年Ｂ組・Ｄ組
主題名	生きがいを求めて　１－（４）
資料名	「悲願のりんご」(「あすを生きる２」日本文教出版) 「夢や理想をもって生きる」(「心みつめて」東京都教育委員会)

ア　資料について

長くて資料理解が困難であるため、板書（掲示）でポイントを押さえ、理解の一助とする。

イ　発問について

二つに絞ったことは、シンプルでよい。

(ｱ)　生徒自身の本音を述べさせることができるように、登場人物の気持ちを追うだけでなく、行動についてどう思うかを問う発問を用意する。

(ｲ)　中心発問「『人間らしく生きる道』とは何か。」

多様な意見を引き出したかったが、ねらいとする道徳的価値に迫れるかどうかが疑問である。

ウ　語り合いについて

(ｱ)　「斉藤さんの行動をどう思うか。」主人公の生き方・行動・態度を問う

・学級全体での語り合いを行った。

・自分自身の考えを述べさせ、学級全体に広げることに時間をかけたい。

・生徒の発言「青森のためになることができていいと思う」

「かっこつけすぎ」

「ただで配るなんておかしい」

「少し割引して売ればいいのに」

→批判的な意見が出たが、それにより斉藤さんの思いが一層浮き彫りになる。ふじの枝を無償で配布した斉藤さんの生き方を考えさせるように中心発問で導く。

(ｲ)　「人間らしく生きる道」

・自分の考えを整える時間を十分にとってから、小集団の語り合いにしたい。

・一通り発言が終わったことを確認し、教師が「(綺麗事で終わらせるのではなく）そうは言うけどさ。」と投げかけ、生徒の心を揺さぶり、語り合いを深めさせる効果があった。

エ　指導過程

(ｱ)　導入

短くてよい。(授業開始から４分で資料の朗読に入っていた。)

りんごの提示、写真の掲示などで資料に引き付けた。

(ｲ)　展開

①　資料の朗読

・ゆっくりと丁寧に行う。

・Ｔ２が読んでもよい。

②　資料の内容理解

・今回は本文が長かったため、掲示物を使用し、人物と時代背景のポイントをおさらいした。

③　資料の内容理解から発問へのスムーズな移行

・展開がぶつぎりにならないように工夫する。

・生徒が考えたくなるような投げかけを行う。

（悪い例）指導案通りに順に発問する。

「発問１番、このとき〇〇はどんな気持ちだっただろう。」

「発問２番、このとき〇〇が～したのはなぜだろう。」

（改善策）

「〇〇はこのとき～したんだよね。このときどんな気持ちだったんだろう。考えてみましょう。」

生徒とやり取りを交え、考えるきっかけを与え、自然の流れで発問するようにする。

④　自分自身を振り返る（「心みつめて」を使用）

資料が現実とかけ離れている場合や生徒の反応でねらいが分散することが予想される場合は、他の資料を用いてねらいとする道徳的価値を深める。

資料として次のものがふさわしい

「ねらいがはっきりと分かるもの」「短い文」「分かりやすいもの」

終末として取り扱う方がよいという意見もあった。

(ｳ)　終末

・Ｔ１・Ｔ２がそれぞれ説話をすることは非常に良い。

・自分自身の振り返りと説話を両方取り入れるのは時間的にも難しい。どちらかにする。

オ　板書について

・板書は一時間の内容が一目で分かるような工夫をする。（参観者が途中から見ても、授業の流れが分かるようにする工夫）

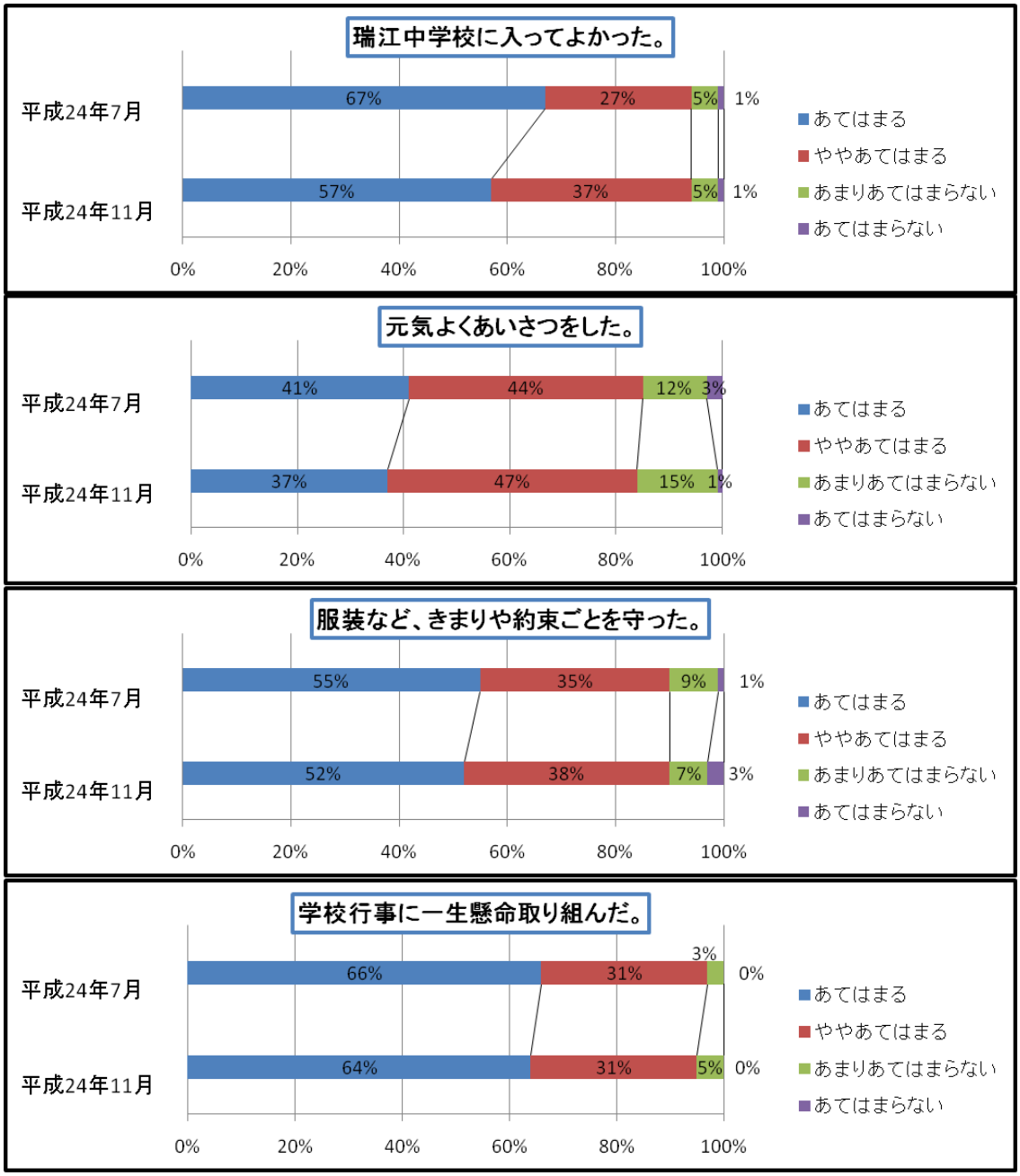
・場面絵やイラスト、文字カード（発問をそのまま書くのではなく、一言でまとめる）の活用

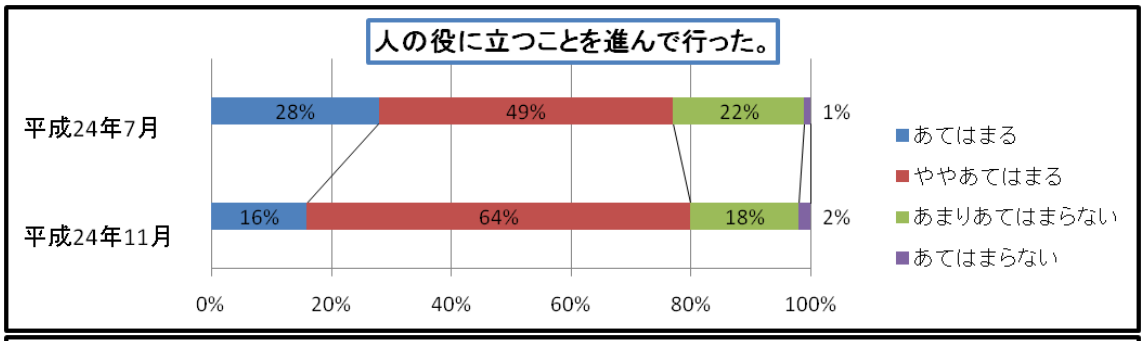
2　調査研究

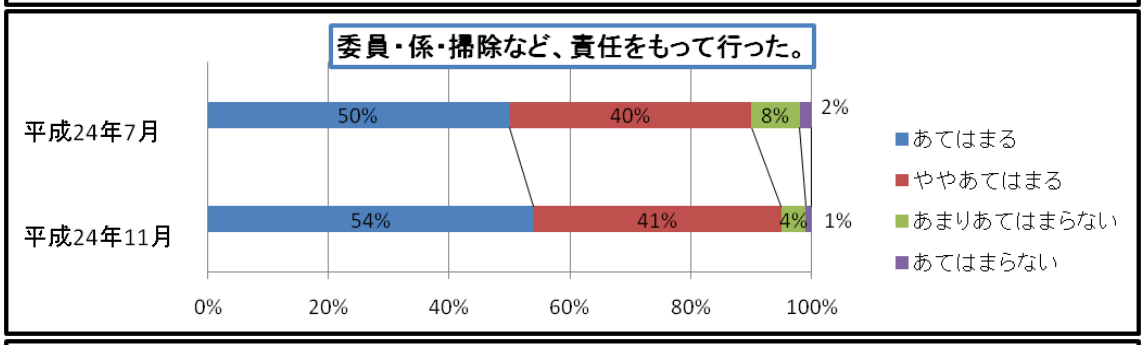
(1)　学期末アンケート

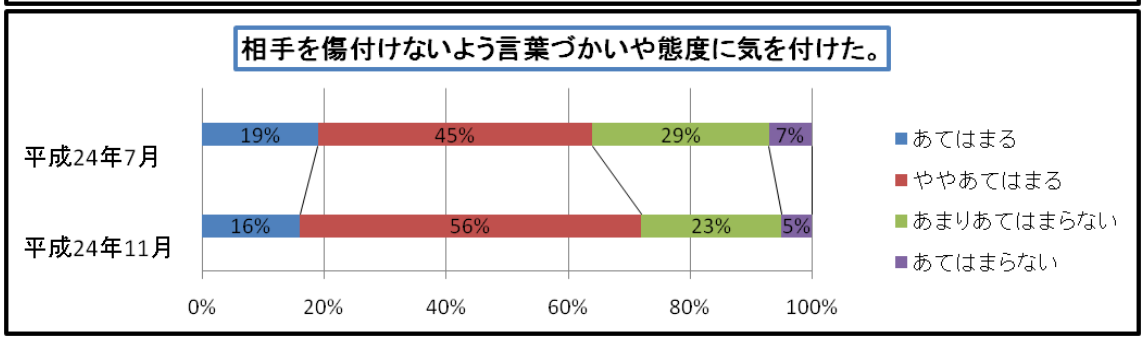
本校では、毎学期末、生徒自身は自己を振り返り、教師は生徒の実態や変容をみとるために、全校生徒を対象にした学校生活に関するアンケートを行っている。本研究と関わりが深い７項目について平成 23 年 11 月、平成 24 年７月、平成 24 年 11 月の３回（第１学年のみ２回）の調査結果を比較し、考察を行った。

ア　第１学年



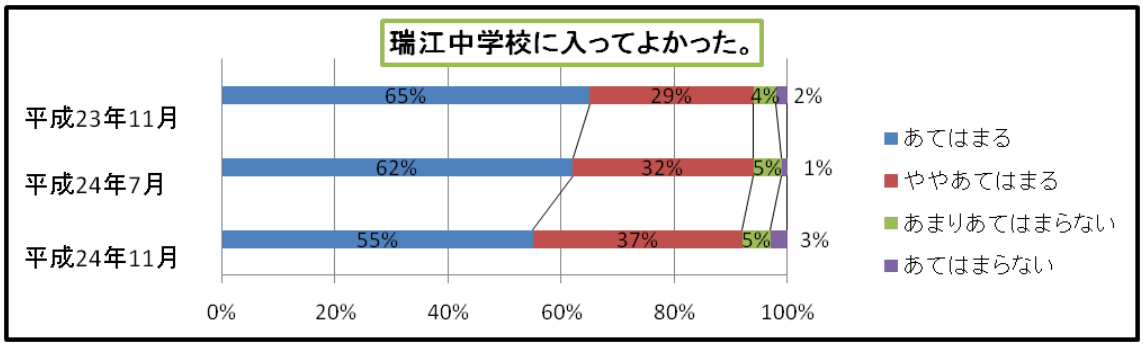


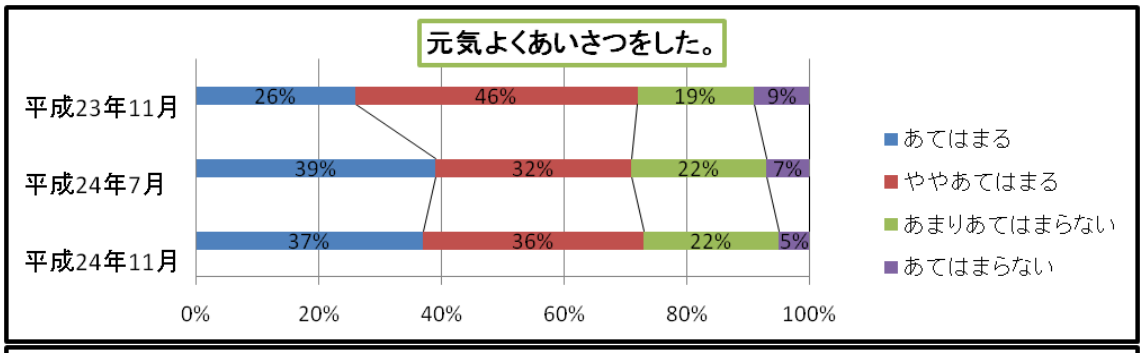


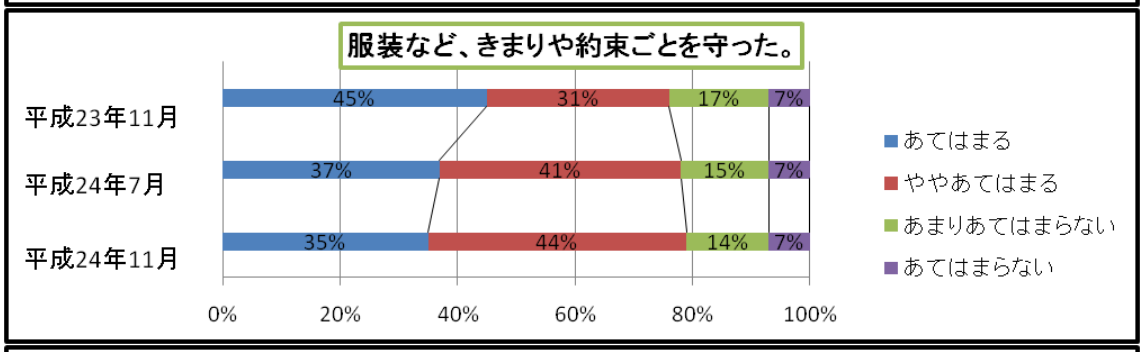


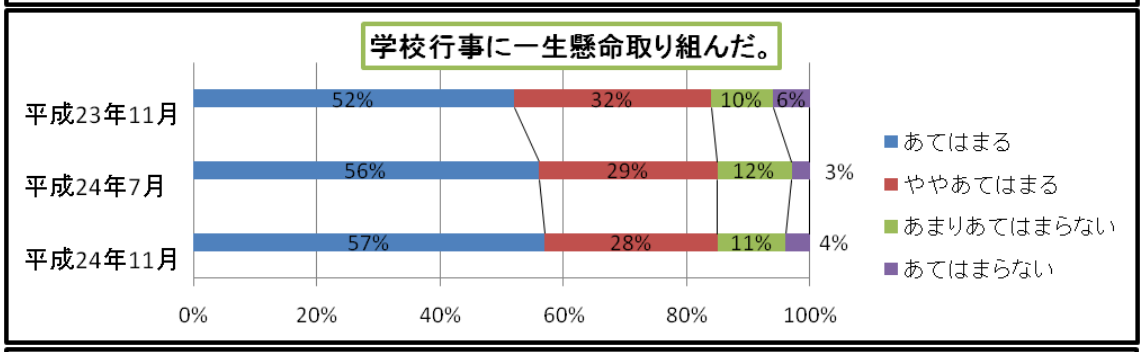
平成 24 年 7 月と平成 24 年 11 月を比較すると、生徒は人の役にたつことを行うことができるようになってきていることがうかがえる。また、自分の仕事に対して責任を感じ始めたり、相手のことを傷つけることのないように配慮ができるようになってきていることも分かる。中学校生活を通して、そういった心が育ってきているものと考えられる。

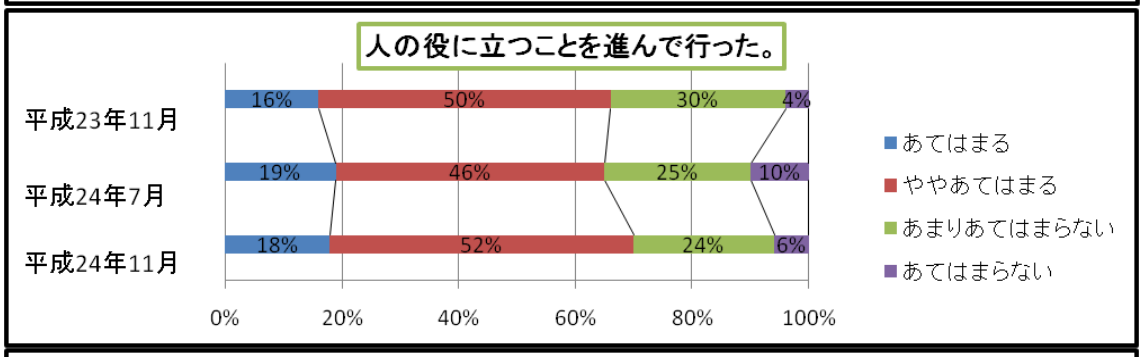
イ　第２学年

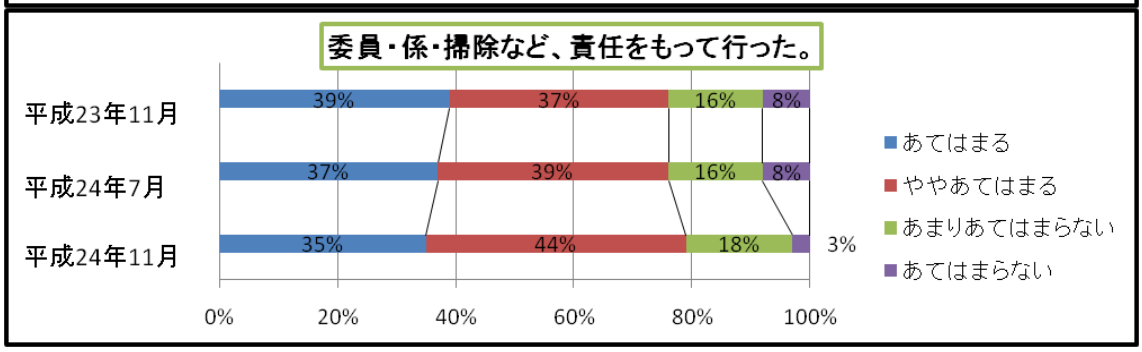


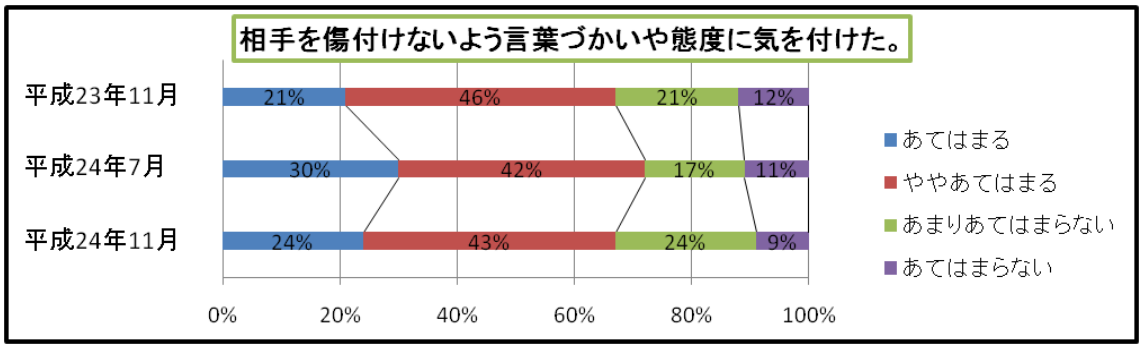

元気よくあいさつをした。
平成23年11月
平成24年7月
平成24年11月
26%
46%
19%
9%
39%
32%
22%
7%
37%
36%
22%
5%
0%
20%
40%
60%
80%
100%
あてはまる
ややあてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない


服装など、きまりや約束ごとを守った。
平成23年11月
平成24年7月
平成24年11月
45%
31%
17%
7%
37%
41%
15%
7%
35%
44%
14%
7%
0%
20%
40%
60%
80%
100%
あてはまる
ややあてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない


学校行事に一生懸命取り組んだ。
平成23年11月
平成24年7月
平成24年11月
52%
32%
10%
6%
56%
29%
12%
3%
57%
28%
11%
4%
0%
20%
40%
60%
80%
100%
あてはまる
ややあてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない

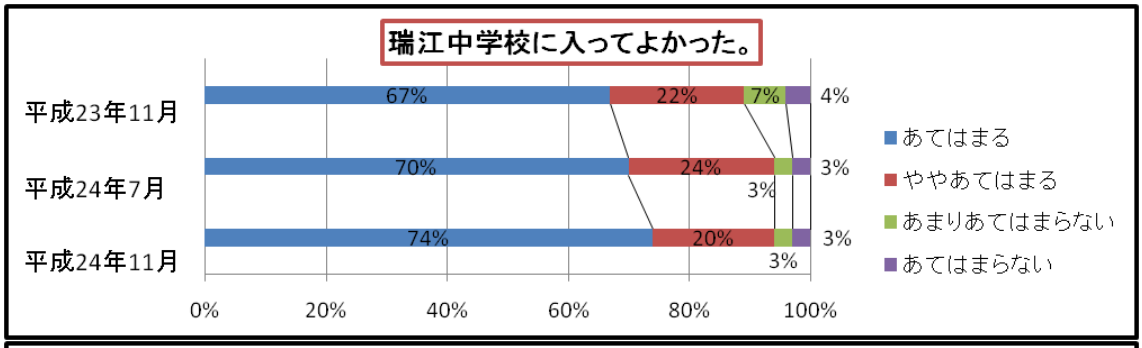

人の役に立つことを進んで行った。
平成23年11月
平成24年7月
平成24年11月
16%
50%
30%
4%
19%
46%
25%
10%
18%
52%
24%
6%
0%
20%
40%
60%
80%
100%
あてはまる
ややあてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない

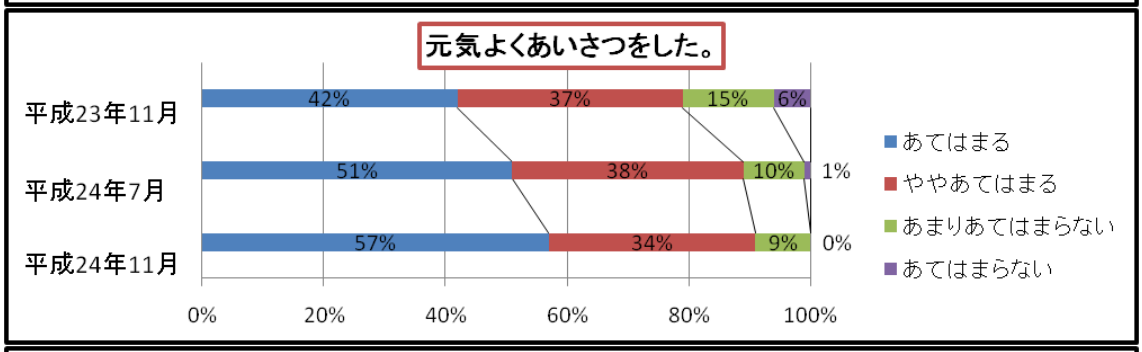

委員・係・掃除など、責任をもって行った。
平成23年11月
平成24年7月
平成24年11月
39%
37%
16%
8%
37%
39%
16%
8%
35%
44%
18%
3%
0%
20%
40%
60%
80%
100%
あてはまる
ややあてはまる
あまりあてはまらない
あてはまらない

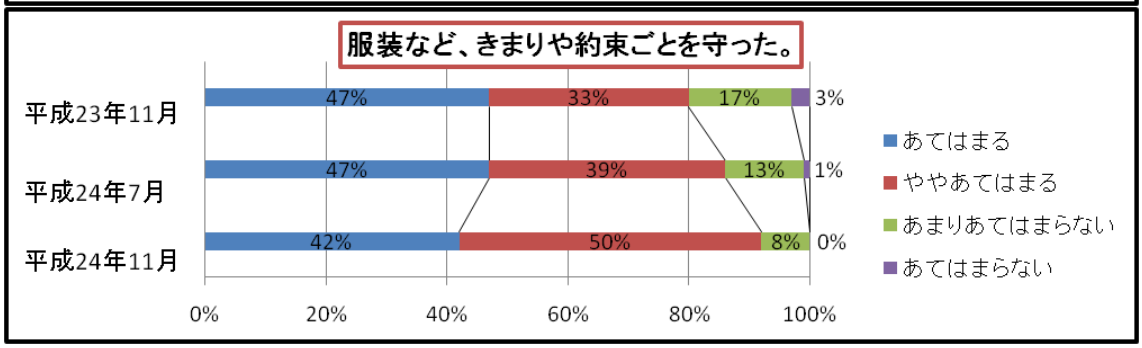


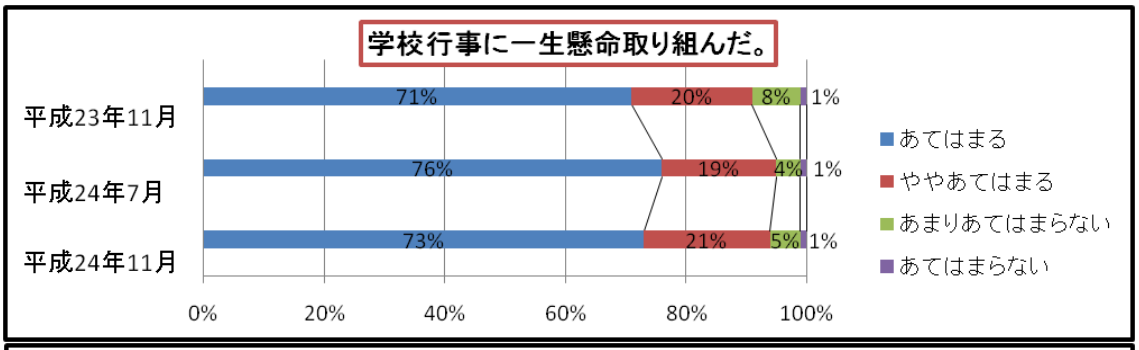
２年生は、平成 23 年 11 月と平成 24 年 11 月を比較すると、きまりや約束事に対しての意識が身についてきていると考えられる。また、あいさつや学校行事への取り組みもよくできていると回答した生徒が増加しているので、自らの生活態度やあいさつなどを見直そうという意識が高まっているものと考えられる。きまりや約束事、あいさつなどに対する意識が甘い生徒もまだおり、今後の課題である。

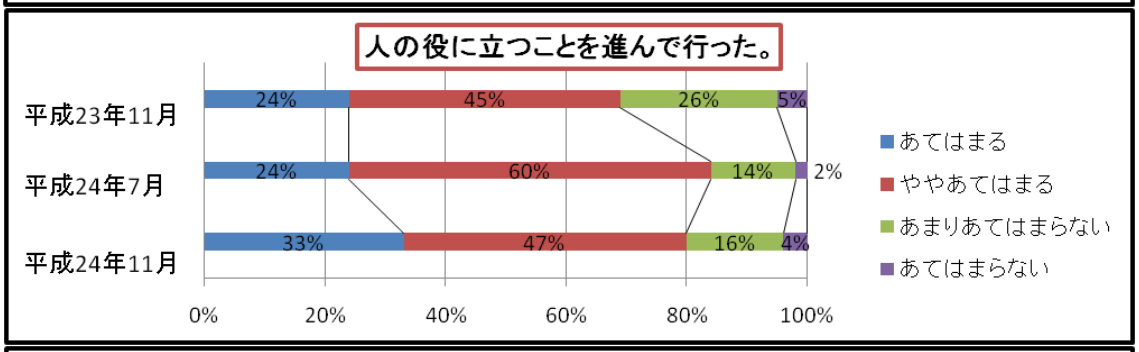
ウ　第３学年

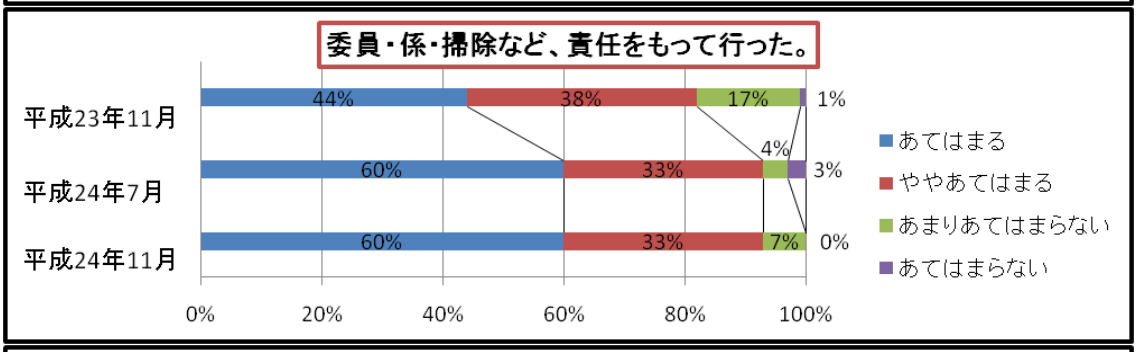


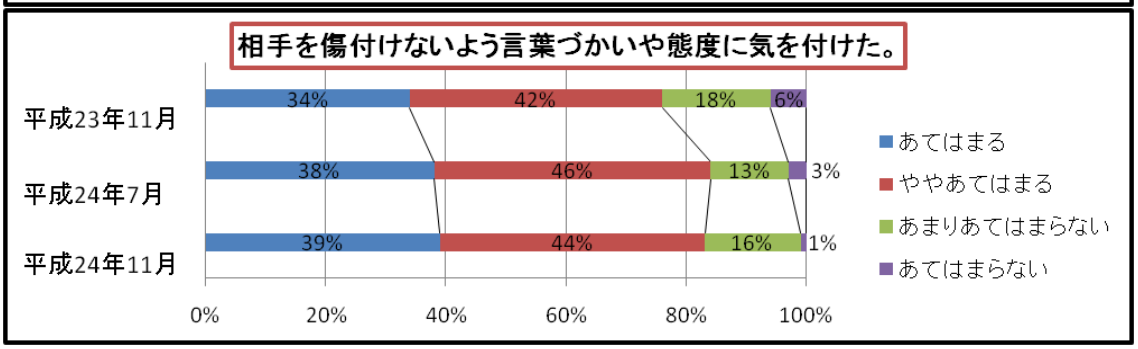












３年生は、身だしなみやあいさつ、仕事に対して前向きに取り組もうとする姿勢が見られる。これは進路決定の時期にさしかかっていることが大きな理由として考えられる。これ以外にも、数値が上昇した理由について、３年間を通した学校教育全体の道徳教育の成果が表れていると思われる。

(2)　道徳アンケート

道徳の時間の中で、どのような資料であれば、生徒達は道徳に興味や関心をもち、共感しやすいかということを把握し、年間を通した生徒の変容を見取るために、本年度に各学年で行った資料について、３つの質問からなるアンケートにて行った。

≪質問①≫
４月から 11 月にかけて授業の中で扱った読み物資料の中から､印象に残った資料を３つを挙げてください。また、その理由を書いてください。

集計結果で、上位となった読み物資料３つとその理由を以下に示す。

ア　第１学年

「かえってきたドラえもん」（「ドラえもん最終回」より）　夢の実現　１－（２）

ドラえもんの最終回のお話です。壊れたドラえもんを直そうと努力して、天才科学者になったのび太がドラえもん直すという筋書きで､夢をあきらめなければ､やがて叶うことを感じさせた。

《理由》

・この話を読んでどんな人でもがんばれば夢はかなうんだなあということを知ったから。
・夢は叶うってことをまた強く印象づけられたから。
・あののび太をここまで本気にできるのはドラえもんだけなんだなと思いました。私も人のために本気なってみたいと思ったから。

「アンキパンは使いたいですか」

（「ドラッグなんかいらない」水谷修著（東山書房）より）　自主・自立　１－（３）

「ドラえもんの道具の利用により簡単に困難を乗り越えられる」ことと「薬物により簡単に快楽が得られる」ことの類似性を使って、薬物乱用に対する「心の隙」を気づかせて、薬物乱用を決して許さない心構えをつくる。

《理由》

・いくら自分にプラスなことがおきてもあとあとにマイナスなことがついてまわるのは嫌だと思ったから。
・薬物がいけないのは知っていたけれど、この資料を読んで薬物の奥深い怖さについて詳しく書かれていたから。
・ドラえもんの話を聞いている中では「アンキパン」は便利だと思っていたが､「薬物」なら使いたい気持ちはなくなって「薬物」の危険さを学べたから。

「ＴＤＬ「カストーディアル」に学ぶ」

（「掃除が変える会社が活きる」山本健吉著（日本実業社）より）勤労の尊さ４－（５）

東京ディズニーランドの掃除のスタッフ「カストーディアル」の活動から日頃の掃除を見直し、本当の活動(プロの仕事)とはどんなものかを考えさせる。

《理由》

・あんなに広いＴＤＬを夜 300 人のカストーディアルが私たちのためにトイレ掃除や細かいところまで掃除をしてくれているのがすごいと思った。

・プロはこんなに大変なんだなと知ったから。

・私の知らないところでどのようにしてＴＤＬで働いているか考えたりしておもしろかったから。

小学校の時と比べて内容の広がりから道徳的価値観等をよく考えるようになってきたと感じる生徒が増え、道徳の時間が楽しく思えるようになってきたと感想を述べる生徒が出てきた。

このことは、資料の選び方を工夫することにより、生徒たちの関心がさらに高まってきたものと考えられる。

イ　第２学年

「言葉の向こうに」（「中学校道徳 読み物資料集」文部科学省）　寛容の心　２－（５）

主人公はサッカーのＡ選手のファンで、インターネットでファン仲間と交流している。ある試合をきっかけにＡ選手への心ない書き込みに怒った主人公は、それに反論する内容を書き込むが、自分自身が非難を浴びてしまう。

《理由》

・実際にたくさんありそうなことをやっていたから。

・私も一度同じような経験をしたことがあるから。

・主人公の気持ちが少しわかる気がしたから。

・相手を思いやる気持ちが大切だと思わされたから。

「規則があなたを守る」（「あすを生きる２」日本文教出版）　きまりの遵守　４－（１）

普段私たちは規則に縛られていると感じている。しかし、規則は私たちを縛るばかりでなく、私たちを守ってもいるのだ。

《理由》

・本当にそのとおりだと共感できるところが多かったから。

・規則があるから今の安全があるのだと感じたから。

・どんな規則にも意味があるということを実感した。

・はじめは、規則は悪いと思っていたが、人々を守ってくれるというところもあって良く思えたし、印象的だった。

「*ありガトオヨ*」（「自分を考える２」あかつき出版）　感謝の心にこたえる　２－（６）

だいさんは、お世話になったホームドクターの髙橋さんに「ありガトオヨ」と書いた遺書を残す。髙橋さんはその遺書に涙し、それを掛け軸にして遺族に贈る。

《理由》

・いろんな人のあたたかさが伝わってきたから。

・感謝の気持ちを忘れてはいけないと思ったから。

・内容が感動的でとてもよかった。

・だいさんが生前に書いた精一杯の遺書に感動したし、髙橋さんが号泣するのもよく分かったから。

・大切な言葉だなぁと思った。文字でこんなに気持ちが伝わることが分かった。

教具を工夫し、実際に活動を交えたことは、生徒の印象によく残っている。日本の文化である風呂敷を紹介する「包む」では、風呂敷でボールを包むという活動を行った。「悲願のりんご」では、本物のりんごを持っていき、導入で使用した。「いきな江戸しぐさ」では、教室で実際に江戸しぐさをやってみた。このように、普段の活動とは少し趣向を変え、生徒たちが実際に体を動かしてみたり、実物を持って行ったり、音楽を流すなど、いつもとは違った道徳の授業を交えることも、生徒の関心を高めることにつながったと言える。

ウ　第３学年

「*ひさの星*」（「あすを生きる３」日本文教出版）　温かい人間愛　２－（２）

自分を犠牲にして他人を救ったひさ、誰にも自分のしたことを言わず正しいと信じたことをやり遂げたひさ、みんなは星を見ては考えさせられた。

《理由》

・自己犠牲は今の若者にはできないと思う。なぜならみんな自分が一番だから。

・誰になんと言われようと、自分の信じたことをやり遂げることの美しさに感動した。

・自分の命を犠牲にしてまで、小さな男の子の命を守ったひさの優しさや勇気が素晴らしいと思った。

・ひさの思いやり、優しさに感動した。勇気があってあこがれた。

・他人が困っていたら必ず助けると言う少女の熱い心が心に残った。

「*二通の手紙*」（「あすを生きる３」日本文教出版）内容項目　規則の意義　４－（１）

元さんの取った行動が本当に正しかったのか、二通の手紙を通して法やきまりを守ることの大切さを学んだ。

《理由》

・きまりを守ることは大切だけど、それに従わなくて誰かが幸せになることに感動した。

・仕事を辞めさせられるかもしれないことをわかっていたのに、そのような行動をとった元さんに心を動かされた。

・きまりを守ることの大切さを知ったし、自分の良心を大切にすることも知った。

・法やきまりを守ることは大切だけど、元さんの取った行動も大切だと思った。

「*三原山噴火・十三時間のドラマ*」（「あすを生きる３」日本文教出版）　強い意志　１－（２）

発電所に勤める前田さんが三原山噴火の際、島民のために島に残り、最後まで発電所を守り通した話。勇気ある強い意志に元気づけられました。

《理由》

・最後まであきらめないことが大事だと教えられたから。

・島民のためにたくさん働き、最後まで仕事に誇りをもって発電所に残り続けた人たちのことが印象に残っている。

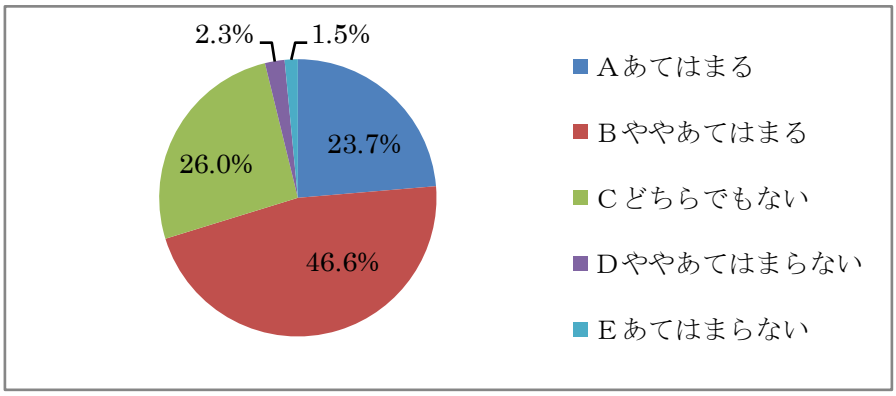
・自分の命が危なくても仕事と家族のために最後の最後まであきらめなかった話がすごかった。

・仕事をやり遂げる人たちはとてもかっこいいと思った。自分の事より他の人を優先する人たちはすごい。

質問②
「道徳の時間が好きである。」という項目に対して、「A:あてはまる」「B:ややあてはまる」「C:どちらともいえない」「D:あまりあてはまらない」「E:あてはまらない」のいずれかを選び答えなさい。また、その理由を書きなさい。

ア　第１学年

第１学年の集計結果は、下の図－１のようであった。



図－１　第１学年「道徳の時間が好きである」回答結果

*「あてはまる」「ややあてはまる」*と回答した理由

・道徳には答がないのでそれを自分で考えてみんなで意見を出し合うのが楽しいから。
・発言するのは、イヤだけど資料を読むのは楽しみだから。
・道徳の時間で身近に感じることをやると、自分自身を改めて見直すようになるから。
・世の中で大変なことを教えてくれたり、自分と思っていることと逆の考えを教えてくれたり、生活する上で大切なことだから。

*「どちらともいえない」*と回答した理由

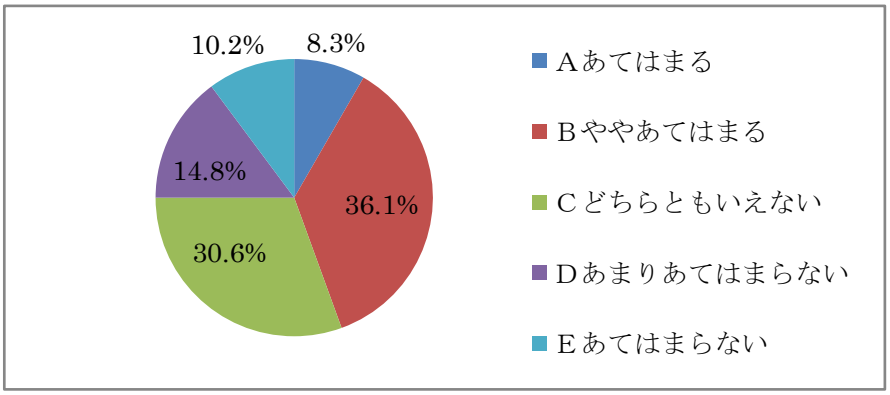
・自分の意見を言葉に表せない。
・道徳の時間は考えるだけだから。
・興味のある内容のときもあるし、興味のない内容もあるから。

*「ややあてはまらない」「あてはまらない」*と回答した理由

・共感できないから。
・つまらないから。
・あんまり集中しにくい。

イ　第２学年

第２学年の集計結果は、下の図－２のようであった。



図－２　第２学年「道徳の時間が好きである」回答結果

*「あてはまる」「ややあてはまる」*と回答した理由

・資料を読むのも好きだし、自分と違う意見の友人の意見をきけるから。

・身近でとても大切なことが多いから、改めて自分を見つめ直すことができる。

・普段の授業ではやらないような内容だから、特別で好き。

*「どちらともいえない」*と回答した理由

・興味がある内容と、あまり興味がない内容のものがあるから。

・あまり答えるのは好きではないけれど、皆の意見を聞いたり、自分で考えたりするのが最近好きになったから。

・自分にあてはまるものと当てはまらないものの差が激しい。

*「ややあてはまらない」「あてはまらない」*と回答した理由

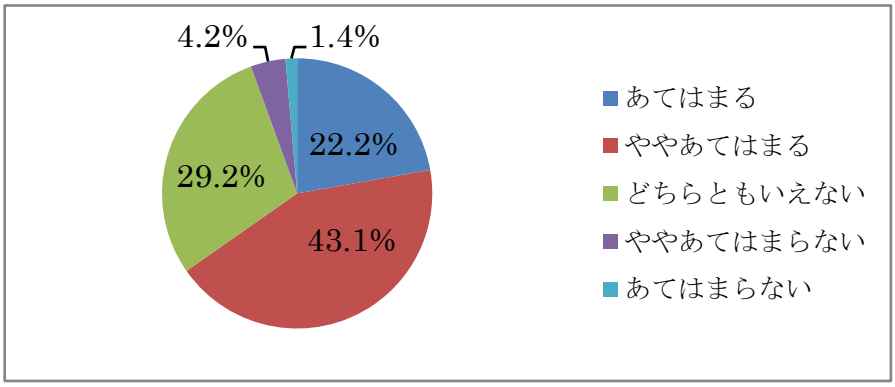
・様々なことを考えなくてはいけないし、発表しなくてはいけないことがあるから。

・おもしろそうな内容の時は好きだけど、ほとんどがつまらなくて、答えがわかってないときに指されたりするのが嫌だ。

・退屈で、学びたいという意欲が湧いてこない。

ウ　第３学年

第３学年の集計結果は以下の通りである。



図－３　第３学年「道徳の時間が好きである」回答結果

*「あてはまる」「ややあてはまる」*と回答した理由

・発言することは苦手だけど、自分がまだ知らなかったことに気づかされることが多い。

・道徳では「何かの教訓」が多く、文中で「これは何を言いたいのか」と考えることが楽しい。

・普段の生活の中での何気ない行動についても考えさせられるし、自分の行動を見直す時間だと思う。

・人間性の向上を図る大切な授業。勉強だけでなく、人間として大切なこととは何か学べるから。

*「どちらともいえない」*と回答した理由

・勉強になったり、ならなかったりする。

・読むのはいいけれど、書くのは苦手だから。

・授業中質問されても、うまく言葉に表せないから。

・読んで、自分も考えさせられることがあるから、知れて嬉しい。

*「あまりあてはまらない」「あてはまらない」*と回答した理由

・相手の気持ちを考えるための集団行動（学校）なのに、授業（勉強の時間）をつぶしてまで道徳する意味がわからない。

・そんなことをやっている暇があったら、勉強したい。

・別にあってもなくても変わらないと思う。

・答えのないことを考えるのはあまり得意じゃないし、好きじゃない。

・自分で感じたこと、思ったことをうまく表現できない。

道徳を好きだと感じる生徒は、「資料を読むこと」「資料について考えること」「意見を交換すること」をおもしろいと感じている。一方、好きではないと感じる生徒は、「読むこと」「意見を発表すること」が苦手で、苦痛と感じている。また、好きだと感じる生徒からも、そうでない生徒からも、扱う教材によって道徳を面白いと感じる場合や、そうではないと感じる場合があるという意見が挙げら

れた。

また、好きであると感じる生徒の中には、道徳が好きである理由に「自分にとって大切である」「色々なことを学べる」といったものを挙げる生徒がいる。道徳の時間そのものに学ぶ意義を見い出している。一方、好きではないと感じる生徒には「なぜ道徳をやらなければならないのか分からない。」と、道徳の時間の意義に疑問を感じている生徒が多いようだ。

≪質問３≫
　これまでの道徳の時間をとおして、自分の考えたことや学んだこと、自分自身が変わったと感じることを書いてください。

ア　１学年

・そこまで深く考えていなっかたことを考えるようになったり、普通のことだけど「自分で考える」という大切さに気付くことができた。人の意見を聞くということもできるようになった気がします。

・みんながいろいろなことを考えていることにビックリしました。自分が何をすべきか、どうすればいいかを考えることができた。これからもたくさん考える力を養っていきたい。

・自分のことを落ち着かせることができた。小学校の時は道徳の時間が嫌だなーと思っていたけど授業の内容が大きくふくらんでくるので中学校の道徳の授業は楽しいと思えるようになった。

イ　第２学年

・自己中心的に生きるのではなく、ちゃんと人のことも考えたりして生きようと思いました。お世話になった人や大好きな人にはしっかり感謝の気持ちを伝えなければと思うようになりました。

・物事を深く、違う見方ができるようになりました。文には書かれていない登場人物の気持ちも少し分かるようになりました。

・どの読み物も、それぞれ違ったことを学べるので、道徳の時間は５教科と同じくらい、もしくはそれ以上に大事な授業だと思いました。

・前までは全く本を読む気にならなかったし、今でも好きではないけれど、前よりは自分の考えを発表できるようになったと思いました。これからも少しずつ本を読んでいこうと思いました。

・色々な人の考えを聞いたりしていると、こんな風に考えたんだな、と自分の考えと比べられるから、４人班の時間はとてもいいなと思います。

ウ　第３学年

・優しい気持ちを手に入れたり、他の人を幸せにできるようになった。

・心が癒される時間で、人間がもっている「思いやり」という大切な心を育てる時間だと思う。

・感情が豊かになった。そしてまた人生について考えさせられた。また頑張ろうと思った。

・勇気づけてくれる内容や、当たり前のことなどいろいろ興味を持てて良かった。

・これまでの道徳を通してたくさんの人が迷い、戦っていると言うことを知った。自分とは違う環境で頑張っている人々の気持ちを受け、自分も負けていられないと思った。
・人々の勇気に感動していた自分がいたことに驚いた。自分がこの先、生きていく上で必要なことを学んだ。
・「当たり前」と考えていることがいかに大切なことであるかを考えさせられた。協調性のある人になりたいと思った。
・周りに感謝の気持ちをもったり、そういう言葉をたくさん言えるようになった。「どんな形でもいいから恩返しをする」というのが、自分の夢のひとつになった。
・普段気にしていないことや、当たり前のようにしていることについて考えると深く考えすぎてなかなか意見が出てこないときがあった。でも当たり前のことを考えることで改めて気を付けなければいけないことなどを発見できて、生活の中に生かせたことが良かったと思った。

Ⅵ　研究の成果

１　指導方法の工夫

(1)　資料選択について

年間を通して、あらゆる種類の資料を生徒に提示し、生徒と教師が共に語り合うことで、時には葛藤し、時には感心し、時には感動する授業を展開することができた。多様な価値観を取り扱うことは生徒に豊かな心を育む大切なことだと分かった。また、後述する道徳アンケートからも道徳の時間に扱うものとしてふさわしい資料を分析することができた。

(2)　発問構成

読み物資料を読み、考える際に、唐突な発問を行うのではなく、自然な流れで発問を行うことが望ましいことが分かった。発問数については中心発問を含めて、二つないし三つ程度に絞り込むことで、一つの発問についてじっくりと考えることができ、語り合いの時間を十分に取ることができた。また、語り合いで多様な意見が出るようにするためにどのような発問をすればよいか教師が工夫をするようになった。また、中学生であるという発達段階を踏まえ、「主人公や筆者の行動に対して、あなたはどう思うか。」という発問をすることによって、生徒が自分自身のこれまでの経験を振り返り、自分の言葉で語れるようになった。

(3)　小集団による語り合い活動

指導過程の中に２人組や４人組による語り合い活動を位置付けることで、生徒一人一人が授業の中で必ず一度は発言する機会を与えることができた。学級全体で自分の考えを発表するときに比べて、小集団になったときの方が発言しやすい雰囲気があり、自分の考えを伝えようとしたり、他者の考えをよく聴こうとしたりする姿勢が見られた。授業後のワークシートを見ると、語り合い活動の後の方が、より価値の自覚が深まり、自分の考えに自信をもてるようになった。

(4)　ティームティーチング（ＴＴ）による授業

担任が主体となり道徳の授業を展開することが基本ではあるが、副担任とともにティームティーチングを行うことで、授業をテンポよく進めることができた。Ｔ２に板書を任せることで、Ｔ１は生徒と常に向き合い、教師と生徒との語り合いをする時間を十分にとることができた。

また、週によっては副担任がＴ１として授業を行うことで、経験の浅い若手教師も含め全教師が道徳の授業を行うことができる体制を整えることができた。

(5)　クロス授業とローテーション授業

教師が複数回同じ内容の授業を、学級を変えて行うことで、発問や板書計画の見直しをすることができ、道徳の授業力向上を図ることができた。また、生徒にとっては担任以外の教師の様々な体験に触れ、多くの教師と人間関係を深めることができ、道徳性の育成にとって大きな役割を果たした。

(6)　板書の工夫

写真や場面絵、文字カード等の視覚資料を計画的に黒板に配置することで、読み物資料の理解に役立てたり、生徒の興味を引いたりすることができた。また、１時間の授業の流れが一目で分かり、生徒が授業を振り返る際にも役立てることができた。

２　指導案検討

従来は各学年の道徳担当教員が道徳の時間の指導案を作成し、全学級で実施していた。今年度は、各教師がＴ１として資料を選定し、Ｔ２の教師と指導案を検討しながら、ねらいとする道徳的価値に迫る発問構成を練った。さらに学年の教員全体で指導案を確認することで質の高い指導案を作成するように心掛けた。複数人で指導案を検討することにより、指導者一人だけで思い悩まず、授業を構築することができた。

道徳の時間の後には、職員室の中で授業を振り返り、生徒の反応や価値の深まりについて従前よりも会話が増えた。

３　道徳研修会

道徳研修会を通して、授業者自身が道徳の授業における改善点を見い出すことができた。また、道徳の授業の基本的な指導法を理解することができた。研修会で学んだことを事後の道徳の時間の指導案を考え、実践する際に生かすことができた。各学年別の研修会の後に、校内 LAN を活用し、研修会報告を上げることにより、全職員で研修会の情報を共有し、授業改善に生かすことができた。

４　調査研究

(1)　学期末アンケート

毎学期末に行っている学校生活に関するアンケートを分析することで、生徒の実態を把握することができた。全ての項目において顕著な数値の増加が見られるわけではないが、学期末毎に増加傾向にあることは見て取れる。

(2)　道徳アンケート

今年度の道徳の時間を振り返るためのアンケートでは、次の三つの項目で研究の成果を見ることができた。

ア　読み物資料について

印象に残る資料として「生徒自身の経験として身近に感じられる資料」と「感動的な資料」が挙がった。身近に感じられる資料では、主人公に自分自身を投影して、主人公の人格を借りて自分自身の思いを語ることができる。また「地域にまつわる資料」も挙げられ、自分たちの住む郷土「えどがわ」にも誇りをもちたいという心情も見られた。

イ　道徳の授業について

道徳の時間については好意的な生徒が多い。「みんなで意見を出し合うのが楽しい」や「身近でとても大切なことが多く、改めて自分を見つめ直すことができる」、「人間として大切なこととは何か学べる」という意見からは、自己を向上させ、人間らしくよりよく生きていこうとする心情を見ることができる。

ウ　道徳の時間を通しての自己の変容について

「人の意見を聞くことができるようになった。」、「感謝の気持ちを伝えなければと思うようになった。」「感情が豊になった。人生について考えさせられた。また頑張ろうと思った。」のように、語り合い活動や資料から学び、自分自身で自己の成長を確かめられている生徒もいる。中には、

「人々の勇気に感動している自分に驚いた。」のように今まで知らなかった自分自身の発見についての言及もあった。

以上の点から、道徳の授業を充実させることが、本校が目指す豊かな心をもつ生徒の育成の一助になっていると言える。

Ⅶ　今後の課題

道徳の時間の指導方法を工夫することにより、生徒の道徳性を育てるうえで十分な成果が得られたが、今後さらに生徒たちに豊かな心を育むために、今後の課題として次の事柄が考えられる。

１　継続的な授業研究

道徳の時間を行うことで、直ちに生徒が変容することはなく、授業を毎週積み重ねることで、道徳心が養われていく。

今年度の研究で道徳の授業を行う上で、資料の選定、発問構成、そして語り合いを重視し、指導案を検討することで、生徒に豊かな心を育むことができることが分かった。生徒一人一人に自分自身を見つめさせ、よりよく生きていこうとする心情や実践意欲、そして態度を育てるために、今後も教師が継続的な授業研究を実践し、道徳の授業において指導力をいかに向上させるかが課題である。

２　年間指導計画の充実

生徒が関心をもつ資料の一つに「生徒自身の経験として身近に感じられる資料」がある。学校生活で経験することを道徳の時間に道徳的価値として生徒に自覚させ、補充・深化・統合するためには、意図的・計画的に道徳の時間の主題を位置付ける必要がある。より効果的に生徒の豊かな心を育てるために、本校の年間行事計画をはじめ各教科等の年間指導計画をもとに道徳の時間の年間指導計画を立てることが課題である。

あとがき

副校長　高橋　健一

本校は、平成２４年度江戸川区教育委員会教育課題実践推進校として「豊かな心を育む道徳の時間の充実」を研究主題に１年間実践的な研究を行いました。研究の中心には資料選択、発問構成の工夫、語り合い学習の実施という三つの柱を据え、全教員が携わる TT による指導方法の工夫に取り組みました。研究主題の達成を目指して、研究推進委員を中心にした各学年の討議を経て、TT による研究授業を行い、さらにそれぞれの学年の協議会を他学年の研究授業に生かしていきました。また、月１回の研究推進委員会では、各学年の成果を全体で共有し、今後の計画・予定を立て、修正を繰り返しながら全教員による研究授業を行いました。それによって、すべての教育活動の中核ともなり得る道徳の授業を意図的、計画的、組織的に展開することができたのではないかと思います。

研究を進めるにあたって、本研究が「研究のための研究」であってはならないとの思いから、あくまでも本校生徒の実態に即し、生徒の道徳的価値観を高めていくこと、豊かな心を育成することを主眼としました。もちろん、道徳の指導は即効的な成果を期待するものではありません。けれども、一つの目標に向けて、全教員が一丸となり真剣に取り組んだ研究が、教員の資質向上に資するだけではなく、生徒の心により豊かな道徳の種を蒔き、将来に花開くものになると確信しています。

最後になりましたが、本研究のためにご指導ご助言をいただいた江戸川区教育委員会、ならびにご多忙の中を、毎回の研究授業だけでなく、足繁くご来校いただき熱心にご指導ご助言をいただいた牧野禎夫先生には心よりお礼申し上げます。

研究に携わった教職員（◎印は研究推進委員長、○印は研究推進委員）

校長　　佐々木　弘叔

副校長　高橋　健一

１学年　木島崇介（国語）　田所寛子（社会）　松下雄平（数学）○高山康史（数学）
　　三田静香（保体）　遊佐照雄（保体）　涌井　清（英語）　奥村あゆみ（英語）

２学年○米澤絵里子（国語）　鈴木彰子（数学）◎丸谷大輔（理科）○畠山　敦（美術）
　　岡田　満（保体）　永原登生子（家庭）　鳥川友紀子（英語）

３学年　中野善弘（国語）　臼倉美代志（国語）　植松雄樹（社会）　飯田広毅（数学）
　　○久道　奏（理科）○近藤　泉（音楽）　針生星児（技術）　小島節子（英語）

養護　　池田亜紀子

事務　　丹野雅一　木村祐理子　高山啓子

用務　　安川一広　川口元子　上村茂子

栄養士　内田恵美子

給食　　牛木恵一　海野敬子　谷脇美子　池住深緑　村田ゆみ子

スクールカウンセラー　中川真美

講師　　社会科１名　理科２名